

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
発達と老化の理解Ⅰ	講義	15	30	1	後期	木曜	3.4限	必修	竹川 三好
[科目のねらい]									
人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要]									
介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。									
[到達目標]									
①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できるようになる。									
②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようになる。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」（中央法規）					教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	人間の成長と発達の基礎的理解 人が発達していくことの理解				9	老年期のセクシュアリティの影響を理解する			
2	生理的発達、心理的発達を理解する				10	老化に伴うところの変化と日常生活 老化が及ぼす心理的影響			
3	人間の発達段階と発達課題				11	老いの価値観・受容			
4	発達段階の意味と一般的な発達区分を理解する				12	老化に伴う身体の変化と日常生活①			
5	発達段階と主な説を理解する				13	老化に伴う身体の変化と日常生活②			
6	発達と個人差				14	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響			
7	老年期の発達と成熟				15	前期授業振り返りとまとめ			
8	老年期の発達課題の留意点				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			
[教員実務経験]									
大学病院（急性期病院）、療養型病院（慢性期病院）、現在は高齢者福祉施設の看護副部長として勤務している教員が、幼児から高齢者の看護的対応の実践を踏まえて人の発達から死まで概観し、特に高齢者の心理的变化と日常生活の関係を講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	講義	15	30	1	後期	木曜	3.4限	必修	竹川 三好

[科目のねらい]

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

[科目の概要]

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

[到達目標]

- ①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できるようになる。
- ②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようになる。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「発達と老化の理解」（中央法規）

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容				回数	授業内容			
1	高齢者と健康 高齢者医療				9	高齢者に多い症状・訴えと留意点 (誤嚥・出血)			
2	高齢者の症状、疾患の理解 (慢性、複数疾患、非定型的症状)				10	高齢者に多い病気とその留意点 (生活習慣病、骨・関節系の病気、歯・口腔の病気)			
3	廃用症候群と社会・家族環境の影響①				11	高齢者に多い病気とその留意点 (目・耳・皮膚・呼吸器の病気)			
4	廃用症候群と社会・家族環境の影響②				12	高齢者に多い病気とその留意点 (腎・泌尿器・消化器系の病気)			
5	高齢者に多い症状・訴えと留意点 (痛み・めまい)				13	高齢者に多い病気とその留意点 (循環器系、脳・神経系の病気)			
6	高齢者に多い症状・訴えと留意点 (体重減少、食欲不振、しびれ、浮腫)				14	高齢者に多い病気とその留意点 (特定疾病、感染症)			
7	高齢者に多い症状・訴えと留意点 (咳・痰、息切れ、掻痒感、不眠)				15	後期授業振り返りとまとめ			
8	高齢者に多い症状・訴えと留意点 (便秘・下痢)				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			

[教員実務経験]

大学病院（急性期病院）、療養型病院（慢性期病院）、現在は高齢者福祉施設の看護副部長として勤務している教員が、幼児から高齢者の看護的対応の実践を踏まえて人の発達から死まで概観し、特に高齢者の心理的变化と日常生活の関係を講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
認知症の理解Ⅰ	講義	15	30	1	後期	月曜	3限	必修	野澤 和代
[科目のねらい] 認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得する。									
[科目の概要] 認知症の基礎的理解、認知症の症状・診断・治療・予防、障害をかかえて生きることへの支援について学ぶ									
[到達目標] 認知症の特徴を理解し、その症状・診断・治療・予防を理解できる。また、これまでの認知症を取り巻く背景を学び、認知症ケアの今後の方向性を理解する。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「認知症の理解」(中央法規)					[授業外学習] 教科書を読み、予習・復習をする 専門用語を理解できるように自己学習を行う				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	認知症とは何か				9	認知症の原因疾患と症状・生活障害②			
2	脳のしくみ				10	認知症の治療薬			
3	認知症の人の心理				11	認知症の予防			
4	中核症状の理解				12	認知症を取り巻く状況			
5	生活障害の理解				13	認知症ケアの理念と視点			
6	BPSDの理解				14	認知症当事者の視点からみえるもの			
7	認知症の診断と重症度				15	まとめ			
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害①				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	/	/	/	10%	試験期間における定期試験あり 筆記試験90% 課題10%			
[教員実務経験]									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
認知症の理解Ⅱ	講義	15	30	2	前期	月曜	3限	必修	野澤 和代
[科目のねらい] 認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得する。									
[科目の概要] 認知症の基礎的理解、認知症の症状・診断・治療・予防、障害をかかえて生きることへの支援について学ぶ									
[到達目標] 認知症の特徴を理解し、その症状・診断・治療・予防を理解できる。また、これまでの認知症を取り巻く背景を学び、認知症ケアの今後の方向性を理解する。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「認知症の理解」(中央法規)					[授業外学習] 教科書を読み、予習・復習をする 専門用語を理解できるように自己学習を行う				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	パーソン・センタード・ケア				9	認知症の人の終末期医療と介護			
2	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール①				10	環境づくり			
3	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール②				11	家族への支援			
4	認知症の人とのコミュニケーション				12	介護福祉職への支援			
5	認知症の人へのケア①				13	制度、サービス、機関、地域づくり			
6	認知症の人へのケア②				14	多職種連携と協働			
7	認知症の人へのさまざまなアプローチ①				15	まとめ			
8	認知症の人へのさまざまなアプローチ②				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	/	/	/	10%	試験期間における定期試験あり 筆記試験90% 課題10%			
[教員実務経験]									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
障害の理解Ⅰ	講義	15	30	2	前期	水曜	2限	必修	福應 渉

[科目のねらい]

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

[科目の概要]

障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。

[到達目標]

- ①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。
 ②障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「障害の理解」（中央法規）

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
 専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容				回数	授業内容			
1	講師自己紹介 講義について 障害とは				9	発達障害			
2	障害の概念				10	重症心身障害			
3	障害者福祉の基本理念				11	内部障害①			
4	運動機能障害①				12	内部障害②			
5	運動機能障害②				13	内部障害③			
6	知的障害				14	特別講義			
7	精神障害				15	前期試験対策			
8	高次脳障害				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			

[教員実務経験]

障害者福祉施設の介護職員を経験し、准看護師の資格と介護福祉士の資格を取得しており現在は施設長として勤務している教員が、現場で経験した障害の種類や特性などの事例を提示しながら障害についての理解と関係性、ケアについて講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
障害の理解Ⅱ	講義	15	30	2	後期	水曜	2限	必修	福應 渉
[科目のねらい]									
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要]									
障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。									
[到達目標]									
①医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。 ②障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができる。 ③障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「障害の理解」(中央法規)					教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	障害の医学的側面の基礎的理解 障害者のこころを考える				9	障害が及ぼす心理的影響 (障害と適応機制・障害の認識)			
2	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (運動障害)				10	障害受容① 障害受容の段階理論			
3	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (内部障害)				11	障害受容② 障害者を取り巻く人々・家族の心理的問題			
4	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (感覚障害)				12	障害者の心理的問題を理解する技法 心理検査等			
5	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (精神障害)				13	障害のある人へのこころの援助 (カウンセリング)			
6	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (知的障害)				14	障害のある人へのこころの援助 (リハビリテーション・教育)			
7	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (発達障害)				15	まとめ 障害児・障害者の心理特性と心理問題			
8	障害のある人の基礎的理解・心理的特性と生活 (コミュニケーション障害)				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	90%	/	/	/	10%	試験期間における定期試験あり 筆記試験90% 課題10%			
[教員実務経験]									
障害者福祉施設の介護職員を経験し、准看護師の資格と介護福祉士の資格を取得しており現在は施設長として勤務している教員が、現場で経験した障害の種類や特性などの事例を提示しながら障害についての理解と関係性、ケアについて講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	講義	15	30	1	前期	木曜	2限	必修	寺岡 恵美子
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] ADLと関連づけて、正常な状態・機能低下の状態・介護のポイントを学習する。									
[到達目標] ①生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 (中央法規)					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	からだのしくみを理解する 人体各部の名称				9	心身の機能低下が移動に及ぼす影響			
2	身じたくに関連したこころとからだのしくみ				10	移動での変化の気づきと対応 観察のポイントと医療職との連携のポイント			
3	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響				11	移動に関連したこころとからだのしくみのまとめ			
4	身じたくでの変化の気づきと対応 観察のポイントと医療職との連携のポイント				12	食事に関連したこころとからだのしくみ			
5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ				13	心身の機能低下が食事に及ぼす影響			
6	移動に関連したこころとからだのしくみ				14	食事での変化の気づきと対応 観察のポイントと医療職との連携のポイント			
7	姿勢と体位①				15	食事に関連したこころとからだのしくみのまとめ			
8	姿勢と体位②				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			
[教員実務経験] 国立病院（障害者リハビリテーションセンター等）に看護職として勤務した経験のある教員が、看護経験において得た患者の病状の身体的変化や心理的变化の課題を踏まえて、生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能と移動、食事などの動作と関連づけて介護のポイントを講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	講義	15	30	1	後期	水曜	2限	必修	寺岡 恵美子
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] ADLと関連づけて、正常な状態・機能低下の状態・介護のポイントを学習する。									
[到達目標] ①生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 (中央法規)					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	からだのしくみを理解する バイタルサイン①				9	排泄での変化の気づきと対応 観察のポイントと医療職との連携のポイント			
2	バイタルサイン②				10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ			
3	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ				11	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響			
4	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響				12	睡眠での変化の気づきと対応 観察のポイントと医療職との連携のポイント			
5	入浴・清潔保持での変化の気づきと対応 観察のポイントと医療職との連携のポイント				13	死にゆく人のこころとからだのしくむ 「死」を理解する			
6	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみのまとめ				14	終末期から「死」までの変化と特徴			
7	排泄に関連したこころとからだのしくみ				15	医療職との連携			
8	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			
[教員実務経験] 国立病院（障害者リハビリテーションセンター等）に看護職として勤務した経験のある教員が、看護経験において得た患者の病状の身体的変化や心理的变化の課題を踏まえて、生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能と移動、食事などの動作と関連づけて介護のポイントを講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅢ	講義	15	30	1	後期	水曜	3.4限	必修	大野 千代子

[科目のねらい]

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。

[科目の概要]

心理学の基礎について、感覚、知覚から記憶、思考、知能、人格、適応まで、多領域に渡って概観し、こころのしくみを理解していく。

[到達目標]

今後、専門科目となる高齢者や障害者の心理をよりスムーズによく理解できるように、心理学の基礎知識を習得していくことを目標とする。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」
(中央法規)

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	人間の欲求とは	9	感情と認知のしくみ
2	自己概念に影響する要因（自己実現と尊厳）	10	意欲・動機づけのしくみ
3	自立への意欲と自己概念（自己実現と尊厳）	11	知能とは何か
4	こころと脳のしくみ	12	適応のしくみ
5	感覚と知覚	13	死にゆく人に関連したしくみ 「死」に対するこころの理解
6	学習とは何か	14	家族の「死」の受容段階と負担軽減
7	記憶とは何か	15	前期授業振り返りとまとめ
8	思考とは何か	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	100%					

[教員実務経験]

重度心身障害者福祉施設、急性期病院における看護職として勤務、その後療養型病院（慢性期病院）に入職経験があり、現在は高齢者福祉施設に勤務している教員が、障害のある人の心理的な変化や生活の中での希望などを達成する支援を踏まえ心理学の基礎について多領域にわたり概観し高齢者や障害者の心理について講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
こころとからだのしくみⅣ	講義	15	30	1	後期	水曜	3.4限	必修	大野 千代子
[科目のねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
[科目の概要] 正常（健康）なからだのしくみを中心に学ぶ。からだのしくみとは、からだの構造（形を決めている者）と機能（はたらき）を指している。正常とは、老化とは、病気とは、についても学ぶ。									
[到達目標] 正常なからだのしくみを理解し、自分自身や高齢者を含む周囲の人たちの健康状態を評価する観察力を身につける。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」 （中央法規）					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	医療・看護・介護の歴史				9	からだのしくみの理解 ：泌尿器系（生殖器、男性）			
2	人体の成長・老化				10	からだのしくみの理解 ：内分泌系（生殖器、女性）			
3	からだのしくみの理解 ：細胞と組織 人体の名称				11	からだのしくみの理解 ：血液・リンパ系			
4	からだのしくみの理解 ：運動器系（骨・関節・筋肉）				12	からだのしくみの理解 ：感覚器系			
5	からだのしくみの理解 ：神経系				13	介護に関連した高齢者の特徴			
6	からだのしくみの理解 ：循環器系				14	介護に関連した病気と症状①			
7	からだのしくみの理解 ：呼吸器系				15	介護に関連した病気と症状②			
8	からだのしくみの理解 ：消化器系				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%					試験期間における定期試験あり 筆記試験100%			
[教員実務経験] 重度心身障害者福祉施設、急性期病院における看護職として勤務、その後療養型病院（慢性期病院）に入職経験があり、現在は高齢者福祉施設に勤務している教員が、障害のある人の心理的な変化や生活の中での希望などを達成する支援を踏まえ心理学の基礎について多領域にわたり概観し高齢者や障害者の心理について講義する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
医療的ケアⅠ（喀痰吸引）	講義	/	32	1	/	/	/	必修	北澤 敏子
[科目のねらい]									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
[科目の概要]									
①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） ※スクーリング5回									
[到達目標]									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「医療的ケア」 （中央法規）									
授業日程と内容									
1 喀痰吸引等制度①					17 消毒と滅菌②				
2 喀痰吸引等制度②					18 小テスト				
3 医療的ケアと喀痰吸引等の種類					19 身体・精神の健康				
4 医行為について					20 健康状態を知る項目（バイタルチェックなど）				
5 その他の制度					21 急変状態について				
6 小テスト					22 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論①				
7 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施①					23 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論②				
8 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施②					24 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論③				
9 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施③					25 小テスト				
10 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施④					26 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説①				
11 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施⑤					27 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説②				
12 小テスト					28 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説③				
13 介護予防					29 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説④				
14 介護職の介護予防					30 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説⑤				
15 療養環境の清潔、消毒法					31 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説⑥				
16 消毒と滅菌①					32 小テスト				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%	/	/	/	/	講義終了後の小テスト100%			
[教員実務経験]									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
医療的ケアⅡ（喀痰吸引演習）	演習	/	/	1	/	/	/	必修	北澤・後藤・永野
[科目のねらい]									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
[科目の概要]									
④喀痰吸引演習 ※スクーリング2回									
[到達目標]									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「医療的ケア」 （中央法規）									
授業日程と内容									
【演習】									
1 喀痰吸引演習①									
2 喀痰吸引演習②									
3 喀痰吸引演習③									
4 喀痰吸引演習④									
5 喀痰吸引演習⑤									
6 喀痰吸引演習⑥									
7 喀痰吸引演習⑦									
8 喀痰吸引演習⑧									
9 喀痰吸引演習⑨									
10 喀痰吸引演習⑩									
11 喀痰吸引演習⑪									
12 喀痰吸引演習⑫									
喀痰吸引 口腔 鼻腔 気管カニューレ内部 1人につき各5回以上									
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	/	/	/	/	/	すべての演習を実施したうえで、各演習行為が手順通りに評価5回目までにすべての項目ができる。			
[教員実務経験]									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
医療的ケアⅢ（経管栄養）	講義	/	18	2	/	/	/	必修	後藤 喜美子
[科目のねらい]									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
[科目の概要]									
③経管栄養（基礎的知識・実施手順） ※スクーリング3回									
[到達目標]									
医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「医療的ケア」 （中央法規）									
授業日程と内容									
1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論①					16 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑨				
2 高齢者および障害児・者の経管栄養概論②					17 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑩				
3 高齢者および障害児・者の経管栄養概論③					18 小テスト				
4 高齢者および障害児・者の経管栄養概論④									
5 高齢者および障害児・者の経管栄養概論⑤									
6 小テスト									
7 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説①									
8 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説②									
9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説③									
10 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説④									
11 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑤									
12 小テスト									
13 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑥									
14 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑦									
15 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑧									
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%	/	/	/	/	講義終了後の小テスト100%			
[教員実務経験]									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
医療的ケアⅣ（経管栄養演習）	演習	/	/	2	/	/	/	必修	北澤・後藤・永野

[科目のねらい]

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。

[科目の概要]

④経管栄養演習
※スクーリング2回

[到達目標]

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「医療的ケア」
(中央法規)

[授業外学習]

授業日程と内容

【演習】

- 1 警官栄養演習①
- 2 経管栄養演習②
- 3 経管栄養演習③
- 4 経管栄養演習④
- 5 経管栄養演習⑤
- 6 経管栄養演習⑥
- 7 経管栄養演習⑦
- 8 経管栄養演習⑧
- 9 経管栄養演習⑨
- 10 経管栄養演習⑩
- 11 経管栄養演習⑪
- 12 経管栄養演習⑫

経管栄養 胃ろう又は腸ろう 経鼻経管栄養
1人につき各5回以上

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	/	/	/	/	/	

[教員実務経験]